

4 花き類・観葉植物・樹木類の病害虫の防除対策

花き類・観葉植物・樹木類の病害虫の耕種的防除と防除上の注意

○ 花き類・観葉植物

アブラムシ類

耕種的防除

- ①整枝や芽かきで生じた残さをほ場外へ持ち出し処分する。
- ②ほ場の残さの処分や付近の雑草除去を行い、ほ場衛生に努める。
- ③シルバーポリフィルム等のマルチ資材を使用して飛来を防止する。
- ④シルバーテープを張って成虫の侵入を抑制する。
- ⑤黄色に誘引されるので、黄色粘着板を設置して捕殺する。
- ⑥施設栽培では、1mm目程度のネットを開口部に設置して成虫の侵入を防止する。
- ⑦施設では、紫外線カットフィルムを被覆し、侵入を抑制する。ただし、作物や品種によって花色が淡くなったり、茎葉の軟弱化を生じる場合があるので注意する。
- ⑧施設内に発生源となる他の作物や鉢植えを持ち込まない。

アザミウマ類

耕種的防除

- ①整枝や芽かきで生じた残さをほ場外へ持ち出し処分する。
- ②ほ場の残さの処分や付近の雑草除去を行い、ほ場衛生に努める。
- ③シルバーポリフィルム等のマルチ資材を使用して飛来を防止する。
- ④シルバーテープを張って成虫の侵入を抑制する。
- ⑤施設栽培では、開口部に防虫ネット(目合い0.4mm以下)を設置し、虫の侵入を防止する。
- ⑥施設では、収穫後1週間程度のハウスの蒸し込み又は土壤消毒を実施する。
- ⑦施設では、紫外線カットフィルムを被覆し、侵入を抑制する。

防除上の注意事項

蕾が大きくなる前に防除を徹底する。

ハダニ類

耕種的防除

- ①ほ場の残さの処分や付近の雑草の除去を行い、ほ場衛生に努める。
- ②施設内に発生源となる他の作物や鉢植え等を持ち込まない。

防除上の注意事項

- ①下葉の裏に多く寄生しているので、薬液が葉裏に十分かかるように不要な下葉を除去した後、丁寧に散布する。
- ②各種薬剤に抵抗性が発達しているため、薬剤散布後は必ず効果を確認する。
- ③薬剤に対する抵抗性が発達しやすいので、同一薬剤の連用及び同一系統薬剤の輪用は避ける。
- ④卵期間が7～10日あるため、気門封鎖剤等の物理的防除剤は2回連続して散布する。

コナジラミ類

耕種的防除

- ①ほ場の残さの処分や付近の雑草の除去を行い、ほ場衛生に努める。
- ②施設栽培では、開口部に防虫ネット(目合い0.4mm以下)を設置し、虫の侵入を防止する。
- ③施設では収穫後は1週間程度のハウスの蒸し込みを実施する。
- ④黄色に誘引されるので、黄色粘着板を設置して誘殺する。
- ⑤施設では、紫外線カットフィルムを被覆し、侵入を抑制する。

ハモグリバエ類

耕種的防除

- ①ほ場の残さの処分や付近の雑草除去を行い、ほ場衛生に努める。
- ②苗は食害痕の見られない健全苗を使用する。
- ③発生地では作付け前に太陽熱消毒(50℃ 1日)を行い、土中の蛹を死滅させる。
- ④黄色に誘引されるので、黄色粘着板を設置して誘殺する。
- ⑤蛹の羽化率を低下させるため、マルチ栽培を行う。
- ⑥施設栽培では、開口部に防虫ネット(目合い0.6mm以下)を設置し、虫の侵入を防止する。
- ⑦施設では紫外線カットフィルムを被覆し、侵入を抑制する。

オオタバコガ

耕種的防除

- ①ほ場の残さの処分や付近の雑草除去を行い、ほ場衛生に努める。
- ②施設栽培の場合、黄色蛍光灯を設置して成虫の侵入を防ぐ。
- ③施設栽培では、開口部に防虫ネット(目合い4mm程度)を設置し、虫の侵入を防止する。
- ④虫糞を目安に被害花、蕾を除去して捕殺する。

ハスモンヨトウ

耕種的防除

- ①ほ場の残さの処分や付近の雑草除去を行い、ほ場衛生に努める。
- ②施設栽培の場合、黄色蛍光灯を設置して成虫の侵入を防ぐ。
- ③施設栽培では、開口部に防虫ネット(目合い4mm程度)を設置し、虫の侵入を防止する。
- ④白変葉を目安に幼虫を捕殺する。
- ⑤施設栽培では、天井のパイプ等に卵塊が産卵されることがあるので除去する。

シロイチモジヨトウ

耕種的防除

- ①ほ場の残さの処分や付近の雑草除去を行い、ほ場衛生に努める。
- ②施設栽培の場合、黄色蛍光灯を設置して成虫の侵入を防ぐ。
- ③施設栽培では、開口部に防虫ネット(目合い4mm程度)を設置し、虫の侵入を防止する。
- ④卵塊や白変葉を目安に幼虫を捕殺する。

ネダニ

耕種的防除

- ①酸性土壌で発生が多いため、石灰等でpH6.0以上の適正酸度に調整する。
- ②連作を避ける。
- ③健全な球根を植える。
- ④掘り取り後はよく乾燥して貯蔵する。
- ⑤未熟堆肥は発生を多くするので、完熟堆肥を用いる。
- ⑥球根の温湯処理(45℃60分間程度)を行う。ただし、高温になると球根に障害が出るので注意する。

○ アイリス

軟腐病、葉枯細菌病

耕種的防除

- ①蒸気消毒、太陽熱消毒を行う。
- ②排水対策を行う。
- ③換気をよくし、多湿を避ける。

尻腐病

耕種的防除

- ①発生地では連作を避ける。
- ②無病球根を選ぶ。
- ③換気をよくし、多湿を避ける。

白絹病

耕種的防除

- ①蒸気消毒、太陽熱消毒を行う。
- ②排水対策を行う。
- ③連作を避ける。
- ④被害株は早期にほ場外に持ち出し、適正に処分する。
- ⑤未熟有機物を多用しない。

○ カーネーション

斑点病

耕種的防除

- ①無病苗を選ぶ。
- ②換気をよくし、多湿を避ける。
- ③被害葉は早期にほ場外に持ち出し、適正に処分する。

さび病

耕種的防除

- ①抵抗性品種を選ぶ。
- ②無病苗を選ぶ。
- ③換気をよくし、多湿を避ける。
- ④発病葉は早期にかきとり、ほ場外に持ち出し適正に処分する。

○ ガーベラ

疫病

耕種的防除

- ①蒸気消毒、太陽熱消毒を行う。
- ②ほ場の排水対策を行う。
- ③連作を避ける。
- ④無病苗を選ぶ。
- ⑤被害株は早期にほ場外に持ち出し、適正に処分する。

灰色かび病

耕種的防除

- ①ほ場の排水対策を行う。
- ②連作を避ける。
- ③無病苗を選ぶ。
- ④被害株は早期にほ場外に持ち出し、適正に処分する。

○ きく

菌核病

耕種的防除

- ①連作を避ける。
- ②換気をよくし、多湿を避ける。
- ③発病葉は早期にかきとり、ほ場外に持ち出し適正に処分する。

白さび病、黒さび病

耕種的防除

- ①抵抗性品種を選ぶ。
- ②無病苗を選ぶ。
- ③施設栽培では換気をよくし多湿を避ける。
- ④下葉および病葉はかぎとる。
- ⑤マルチ栽培は有効である。
- ⑥適正な肥培管理を行う。

防除上の注意事項

- ①同一系統の薬剤の輪用および連用は避ける。
- ②発病が認められたら、3日おきに3～4回散布する。
- ③親株ほ場での防除を徹底する。
- ④露地は雨後に発生が多くなるのでほ場を見回り発病が認められたら防除を行う。

黒斑病、褐斑病

耕種的防除

- ①施設栽培では換気をよくし多湿を避ける。
- ②下葉および病葉はかぎとる。
- ③マルチ栽培は有効である。
- ④適正な肥培管理を行う。

防除上の注意事項

発病が認められたら7～10日おきに3～4回薬剤散布をする。

白絹病

耕種的防除

- ①連作を避ける。
- ②施設栽培では換気をよくし、多湿を避ける。
- ③被害株は早期にほ場外に持ち出し、適正に処分する。
- ④未熟有機物を多用しない。

灰色かび病

耕種的防除

- ①施設栽培では換気をよくし、多湿を避ける。
- ②被害花、被害葉は除去する。

花枯病、花腐病

耕種的防除

- ①施設栽培では換気をよくし、多湿を避ける。
- ②被害花、被害葉は除去する。

ネグサレセンチュウ

耕種的防除

- ①連作を避け、田畑転換を行う。
- ②常発地では、土壌還元消毒、蒸気消毒等を行う。
- ③対抗植物としてマリーゴールド、クロタリヤ等を前作に栽培する。

○ グラジオラス

球根腐敗病

耕種的防除

- ①太陽熱消毒をする。
- ②連作を避ける。
- ③無病球根を選ぶ。
- ④被害株は早期にほ場外に持ち出し、適正に処分する。
- ⑤貯蔵中は乾燥を保つ。

硬化病

耕種的防除

- ①連作を避ける。
- ②無病球根を選ぶ。
- ③ほ場は多湿にならないように、排水、通風、採光をよくする。
- ④被害株は早期にほ場外に持ち出し、適正に処分する。
- ⑤適正な肥培管理を行う。

菌核病

耕種的防除

- ①5年間は連作を避ける。
- ②無病球根を選ぶ。
- ③ほ場は多湿にならないように、排水、通風、採光をよくする。
- ④被害株は早期にほ場外に持ち出し、適正に処分する。

赤斑病

耕種的防除

- ①マルチ栽培をする。
- ②適正な肥培管理を行う。

○ シクラメン

軟腐病

耕種的防除

- ①鉢土等は消毒する。
- ②灌水過多を避ける。
- ③換気をよくし、多湿を避ける。
- ④発病葉は早期にかきとり、ほ場外に持ち出し適正に処分する。

葉腐細菌病

耕種的防除

- ①～④軟腐病に準ずる。
- ⑤花蕾処理等に使用するピンセットは消毒したものをを用いる。

○ 宿根かすみそう

疫病

耕種的防除

- ①蒸気消毒、太陽熱消毒を行う。
- ②無病苗を選ぶ。
- ③被害株は早期にほ場外に持ち出し、適正に処分する。

黒斑病、灰色かび病、うどんこ病

耕種的防除

- ①換気をよくし、多湿を避ける。
- ②被害茎葉、被害花は早期にほ場外に持ち出し、適正に処分する。

○ すいせん

乾腐病

耕種的防除

- ①無病球根を選ぶ。
- ②種球に傷をつけないように注意して植付ける。
- ③過湿、過乾にならないよう、適正な土壌水分管理を行う。
- ④被害株は早期にほ場外に持ち出し、適正に処分する。

灰色かび病

耕種的防除

- ①施設栽培では換気をよくし、多湿を避ける。
- ②被害株は早期にほ場外に持ち出し、適正に処分する。

斑点病

耕種的防除

- ①発病の多いほ場からは種球をとらない。
- ②被害花は早期にほ場外に持ち出し、適正に処分する。

○ スターチス

灰色かび病

耕種的防除

- ①換気をよくし、多湿を避ける。
- ②被害花茎、被害葉は早期にほ場外に持ち出し、適正に処分する。

○ ストック

黒腐病

耕種的防除

- ①2年以上の輪作を行う。
- ②定植時に根を切らないように注意する。
- ③被害株は早期にほ場外に持ち出し、適正に処分する。

萎凋病

耕種的防除

- ①3～4年以上の輪作を行う。
- ②適正な肥培管理を行う。
- ③被害株は早期にほ場外に持ち出し、適正に処分する。

○ チューリップ

球根腐敗病、かいよう病、褐色斑点病

耕種的防除

- ①連作を避ける。
- ②無病球根を選ぶ。
- ③被害株は早期にほ場外に持ち出し、適正に処分する。

サビダニ

耕種的防除

- ①発生ほ場では球根等の残さをできるだけ残さないようにする。
- ②球根と表皮の間にサビダニが多いので、表皮のはがれた部分は集めて処分する。

○ トルコギキョウ

クロバネキノコバエ類

耕種的防除

- ①被害株はほ場外に持ち出し処分する。
- ②有機質資材を過度に施用しない。
- ③青色蛍光灯で誘殺する。

○ ばら

うどんこ病、黒星病

耕種的防除

- ①換気をよくし、多湿を避ける。
- ②適正な肥培管理を行う。

チュウレンジハバチ

耕種的防除

- ①幼虫が群生しているのを見つけ次第除去する。
- ②施設栽培では、開口部に防虫ネット(目合い1mm程度)を設置し、虫の侵入を防止する。

○ フリージア

首腐病、球根腐敗病

耕種的防除

- ①蒸気消毒、太陽熱消毒を行う。
- ②無病球根を選ぶ。
- ③ほ場は多湿にならないように、排水、通風、採光をよくする。
- ④被害株は早期にほ場外に持ち出し、適正に処分する。

○ ゆり

立枯性病害(茎腐病等)

耕種的防除

- ①3～5年間連作は避ける。
- ②被害株は早期にほ場外に持ち出し、適正に処分する。
- ③適正な肥培管理を行う。

○ りんどう

褐色根腐病

耕種的防除

- ①連作を避ける。
- ②無病苗を選ぶ。
- ③ほ場の排水対策を行う。
- ④被害株は早期にほ場外に持ち出し、適正に処分する。

葉枯病

耕種的防除

- ①敷わらをする。
- ②ほ場は多湿にならないように、排水、通風、採光をよくする。
- ③草勢の弱い株ほど発病しやすいので、切花数や肥培管理に注意する。
- ④被害葉は早期にほ場外に持ち出し、適正に処分する。
- ⑤切花後のほ場は、敷わら、茎葉とも集めてほ場外に持ち出し、適正に処分する。
- ⑥抵抗性品種を選ぶ(エゾリンドウ系品種は弱く、ササリンドウ系品種は強い)

防除上の注意事項

初発期の5月上旬以降は、10日間隔を目途に降雨前に薬剤散布を行う。

菌核病

耕種的防除

- ①連作を避ける。
- ②ほ場は多湿にならないように、排水、通風、採光をよくする。
- ③被害株は早期にほ場外に持ち出し、適正に処分する。

花腐菌核病

耕種的防除

茎葉が枯れたらすぐ刈取り、ほ場外に持ち出し、適正に処分する。

リンドウホソハマキ

耕種的防除

株元の茎で越冬するので、被害株は早期に抜き取り、処分する。

○ しきみ ハマキムシ

耕種的防除

巻いた被害葉を目安に捕殺する。

○ つつじ 褐斑病、葉枯病

耕種的防除

- ①排水、通風に努める。
- ②落葉は集めてほ場外に持ち出し、適正に処分する。
- ③樹勢を低下させない。

花腐菌核病

耕種的防除

被害花、落葉は早期にほ場外に持ち出し、適正に処分する。

ツツジグンバイ

耕種的防除

被害により落葉した葉は集めて焼却処分する。

○ せんりょう 白絹病、立枯病

耕種的防除

- ①ほ場は多湿にならないように、排水、通風、採光をよくする。
- ②被害株は早期にほ場外に持ち出し、適正に処分する。